

水稻新品種「みずかがみ」特A取得！

農業技術振興センター農業革新支援部

【普及活動のねらい・対象】

農業技術振興センターで育成された水稻新品種「みずかがみ」は、夏場高温になっても「白未熟粒」の発生が少なく、玄米品質が低下しない、高温登熟耐性の強い品種として華々しくデビューしました。県として、近江米の主力ブランドとして育てる方針を持っており、そのためには作付面積を急速に拡大させ、流通評価も得る必要がありました。

【普及活動の内容】

「みずかがみ」を推進するにあたり、普及が主体となり、研究、行政および流通を含めた関係機関間で協議を重ね、現地検討会や流通販売のPRを関係機関一体となり取り組みました。

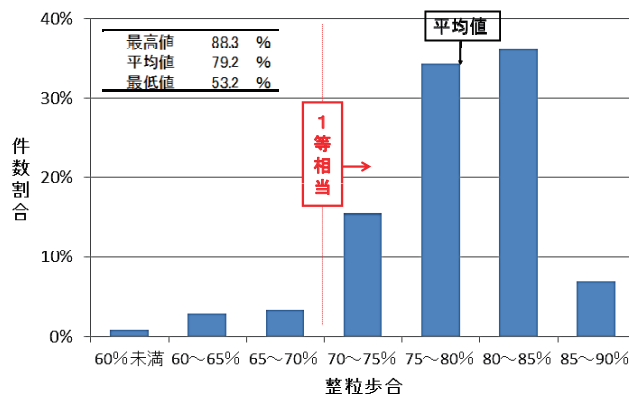
また、「みずかがみ」の特性を最大限引き出すため、県内6地域に実証ほを設置し、タンパク質含有率の低減施肥、高品質・良食味を可能とする長期湛水管理、良食味の確保に最適となる籾黄熟期収穫を指導・実践するなど、生産者に対し、高品質・良食味・安定生産技術の周知徹底を図り、習得していただきました。

1月開催のシンポジウムにおいて、これまでの成績や来年度の栽培時の注意点に加え、生産者、流通業者の「みずかがみ」に対する思いを発表していただくことで、取組者の確保が行え、次年度以降の作付推進につなげることができました。

【普及活動の成果】

H25年の夏は酷暑となり、他の品種が軒並み品質低下したにもかかわらず、指導による栽培技術の徹底もあり、「みずかがみ」の品質は期待通り良好となり、1等米比率は87%を上回る成績となりました。さらに、今年度の日本穀物検定協会米食味ランキングにおいて、参考品種ながら滋賀県初の「特A」を取得できました。また、販売開始イベントにおいて、知事自らPRをしていただくこともあり、販売は好調となっています。

これらのことから、来年度の作付は当初目標の1,000haを超える希望が出されています。引き続き来年度以降も安定生産、良食味を継続するため、栽培技術の指導を徹底し、さらに「みずかがみ」の普及拡大・定着を目指します。



H25年産「みずかがみ」生産者の整粒歩合分布

※平成25年生産者提供サンプル(233件)より集計。
S社製穀粒判別器での測定値(1,000粒分析)。